

食の志向 上昇傾向の「健康志向」が低下し、「経済性志向」が上昇に転じる
～ 「簡便化志向」は小幅な上昇が続き過去最高の水準 ～
<平成29年度下半期消費者動向調査>

日本政策金融公庫（略称：日本公庫）農林水産事業が、平成 30 年 1 月に実施した「平成 29 年度下半期消費者動向調査」の結果、現在の食の志向は、「健康志向」「経済性志向」「簡便化志向」が引き続き 3 大志向となりました。今回の調査では、上昇傾向にあった「健康志向」が低下した一方で、低下傾向にあった「経済性志向」が上昇に転じています。「簡便化志向」は小幅な上昇が続き、過去最高の水準となっています。

詳細は以下のとおりです。

<調査結果のポイント>

○ 世帯構成により食の志向に大きな差（資料：図1, 2, 3）

消費者の現在の食の志向については、「健康志向（42.9%）」が前回（平成 29 年 7 月調査）より 1.7 ポイント低下、「経済性志向（35.1%）」が前回より 2.3 ポイント上昇、「簡便化志向（31.7%）」が前回より 0.3 ポイント上昇という結果となりました。引き続きトップの「健康志向」が前回までの上昇傾向から低下した一方で、低下傾向にあった「経済性志向」が上昇に転じています。また、「簡便化志向」が微増し過去最高となりました。

世帯構成別に見ると、子どものいない世帯では「健康志向」をはじめとし、「経済性志向」「簡便化志向」を除く全ての志向で他の世帯より高くなりました。一方で、単身世帯では、「経済性志向」「簡便化志向」で突出して高くなり、他の全ての志向では最も低い水準となりました。

○ 輸入食品のイメージは上昇傾向（資料：図4）

国産食品と輸入食品に対するイメージを聞いたところ、価格については、国産食品は「高い（72.0%）」が 4 半期連続で上昇し、平成 28 年 1 月調査から 4.1 ポイント上昇しています。一方で、輸入食品は「安い（67.4%）」が 4 半期連続で上昇し、平成 28 年 1 月調査から 3.3 ポイント上昇しています。

また、輸入食品は「安全面に問題がある（41.9%）」が 5 半期連続で低下しており、平成 27 年 7 月調査から 7.1 ポイント低下しています。さらに、輸入食品は「おいしくない（14.2%）」も 5 半期連続で低下し、平成 27 年 7 月調査から 3.5 ポイント低下しています。従来からの国産食品の「高い」「安全」「おいしい」、輸入食品の「安い」というイメージは過半を占めるものの、輸入食品のイメージが上昇傾向にあることが伺える結果となりました。

○ 「子供のいない世帯」が最も国産品を選ぶ（資料：図5, 6, 7, 8）

輸入食品と比べ、どのくらいの価格レベルまでなら国産食品を選ぶか、いわゆる価格許容度を聞いたところ、「3割高を超える価格でも国産品を選ぶ（18.2%）」が前回調査よりも低下し、「3割高までなら（9.4%）」「2割高までなら（18.0%）」「1割高までなら（18.2%）」が上昇しました。これらの合計値の「割高でも国産を選ぶ（63.9%）」は前回調査と同じ値となりました。

世帯構成別に見ると、「割高でも国産を選ぶ」と回答した割合は、子供のいない世帯（65.6%）、子どものいる世帯（64.1%）、単身世帯（55.7%）の順となり、子供のいない世帯が最も「割高でも国産品を選ぶ」という結果となりました。

品目別に見ると、子供のいる世帯と子供のいない世帯が「割高でも国産を選ぶ」割合が単身世帯よりも10ポイント前後高いというのが全品目に共通した傾向で、さらに、子供のいる世帯と子供のいない世帯とを比較すると、「割高でも国産を選ぶ」割合は総じて両者が拮抗しているものの、牛肉と豚肉では後者が前者を4ポイント程度上回っているのが特徴的です。

また、日本の伝統的な主食である米は、全品目の中で唯一「3割高を超える価格でも国産品を選ぶ」との回答において、子供のいる世帯が子供のいない世帯を上回る結果となりました。

※ 本調査では、子供のいる世帯とは単身世帯以外で20歳未満の子供のいる世帯。子供のいない世帯とは単身世帯以外で、20歳未満の子供のいない世帯としています。

調査時期	平成30年1月
調査方法	インターネットによるアンケート調査
調査対象	全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）

図1 現在の食の志向（上位）の推移/2つまで回答

※四捨五入の関係上、合計が一致しない場合がある。

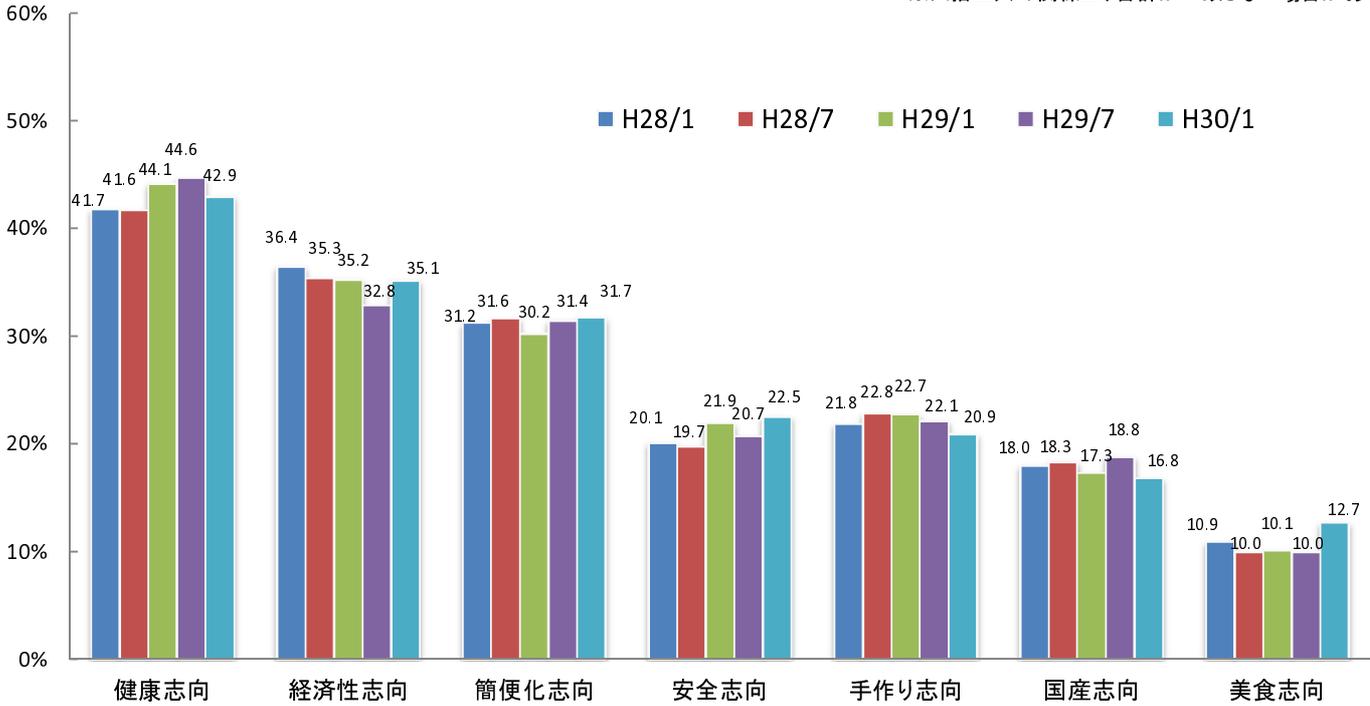


図2 「健康志向」「経済性志向」「簡便化志向」の推移

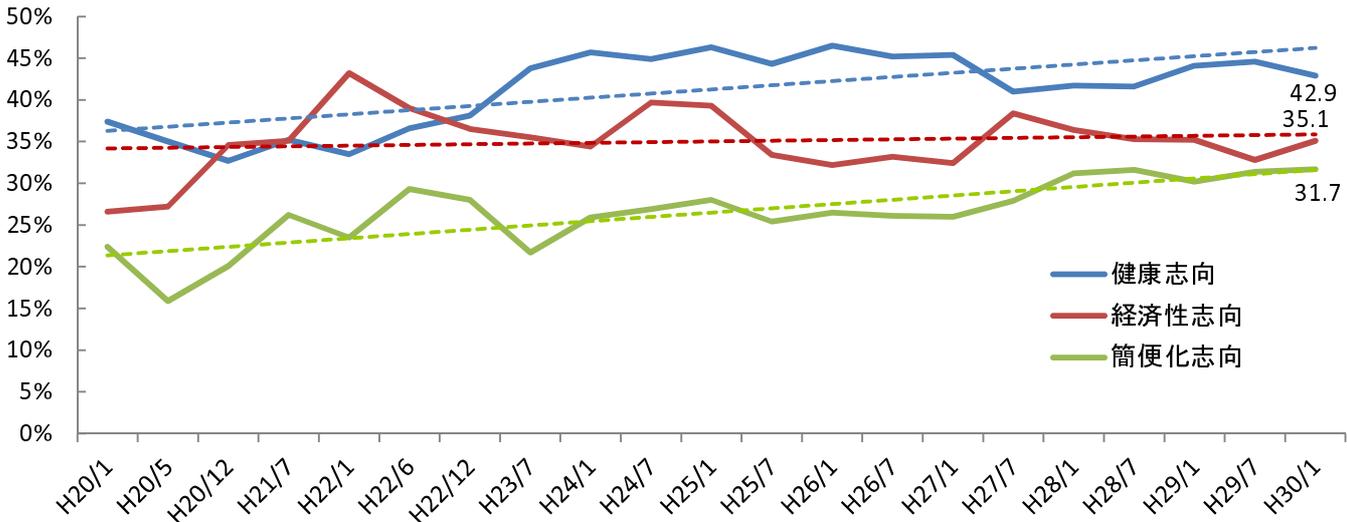


図3 世帯構成別 現在の食の志向

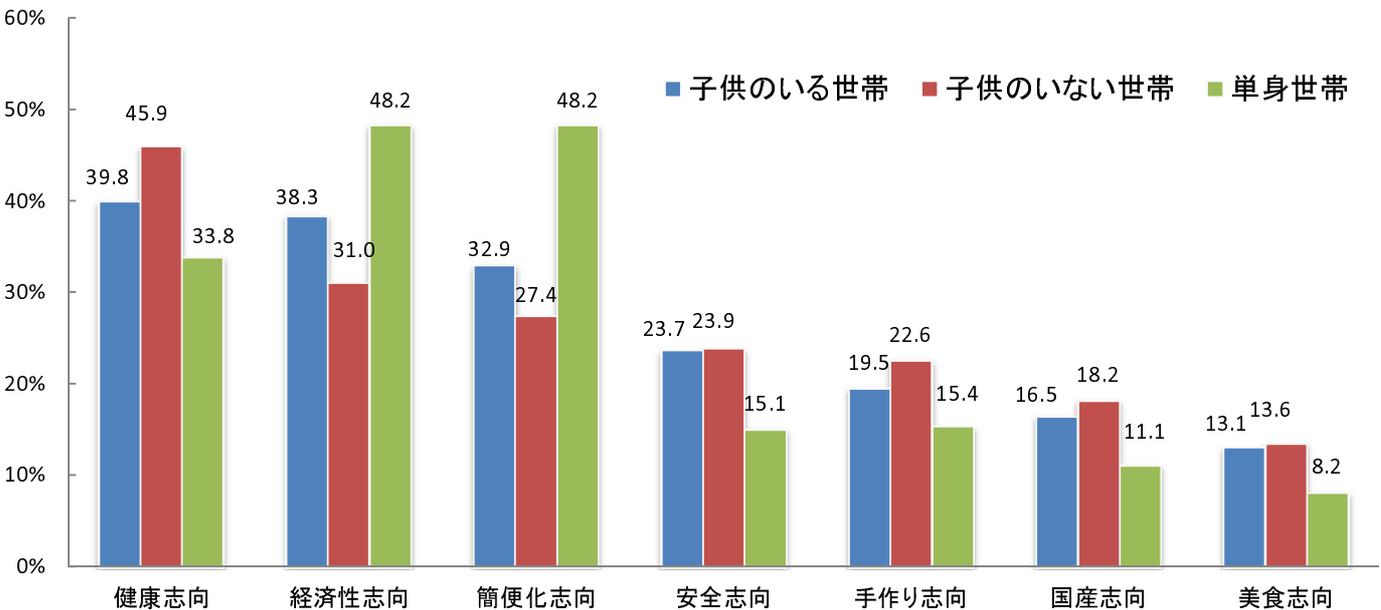
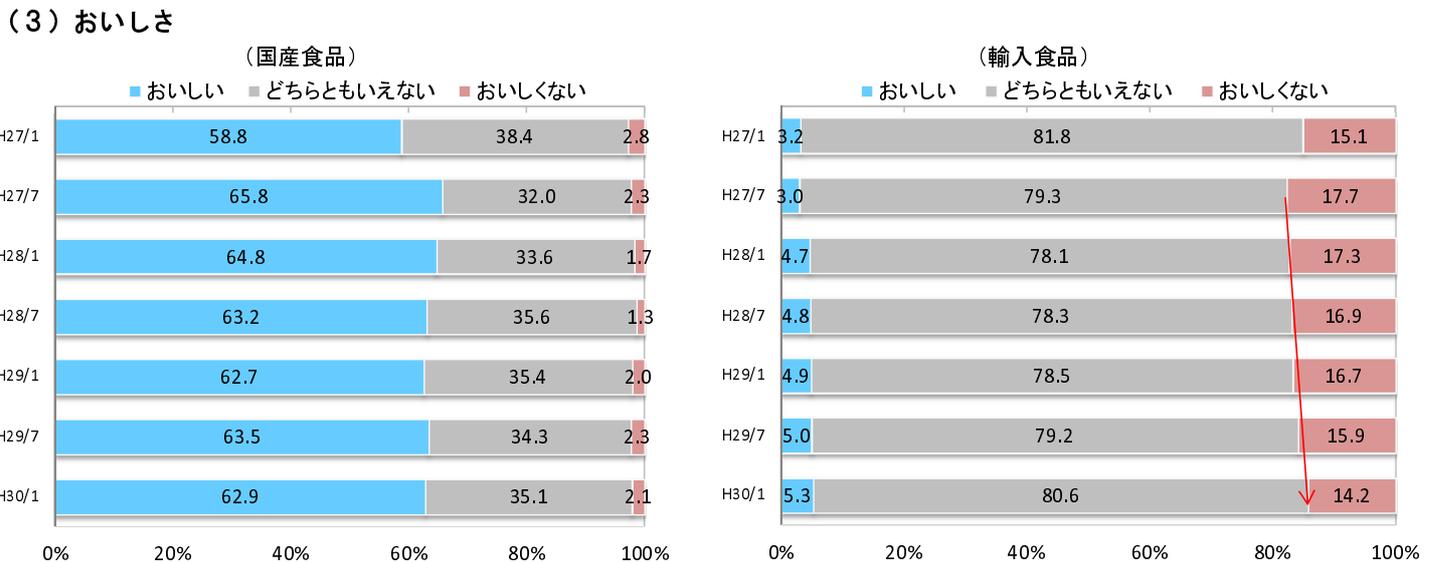
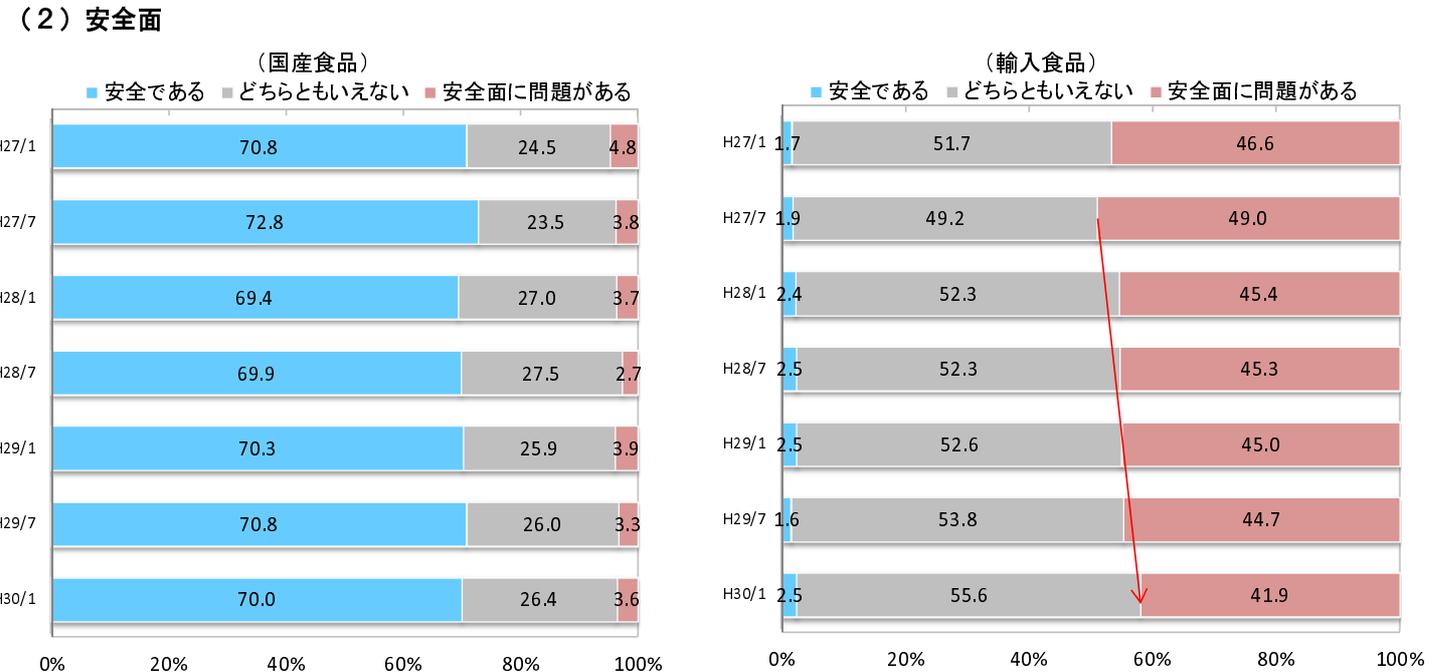
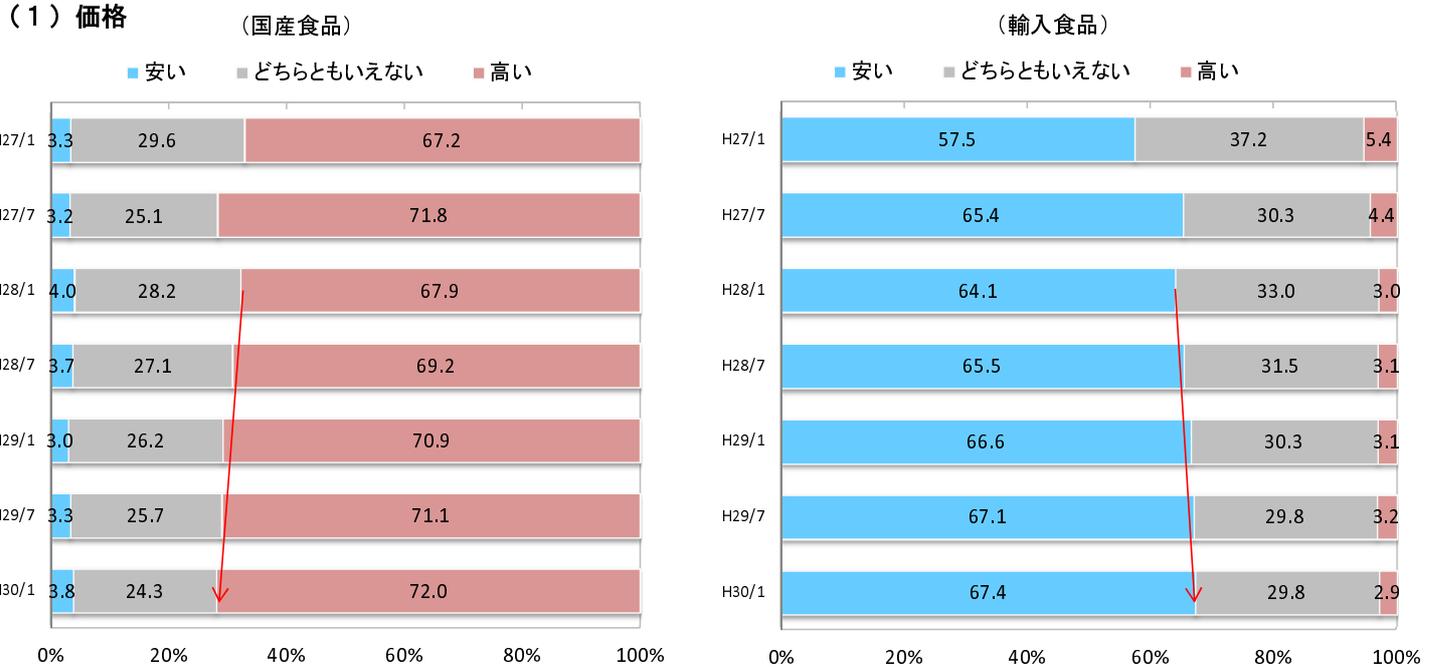


図4 国産原料の食品/輸入食品に対するイメージ



(4) 見た目

(国産食品)

(輸入食品)

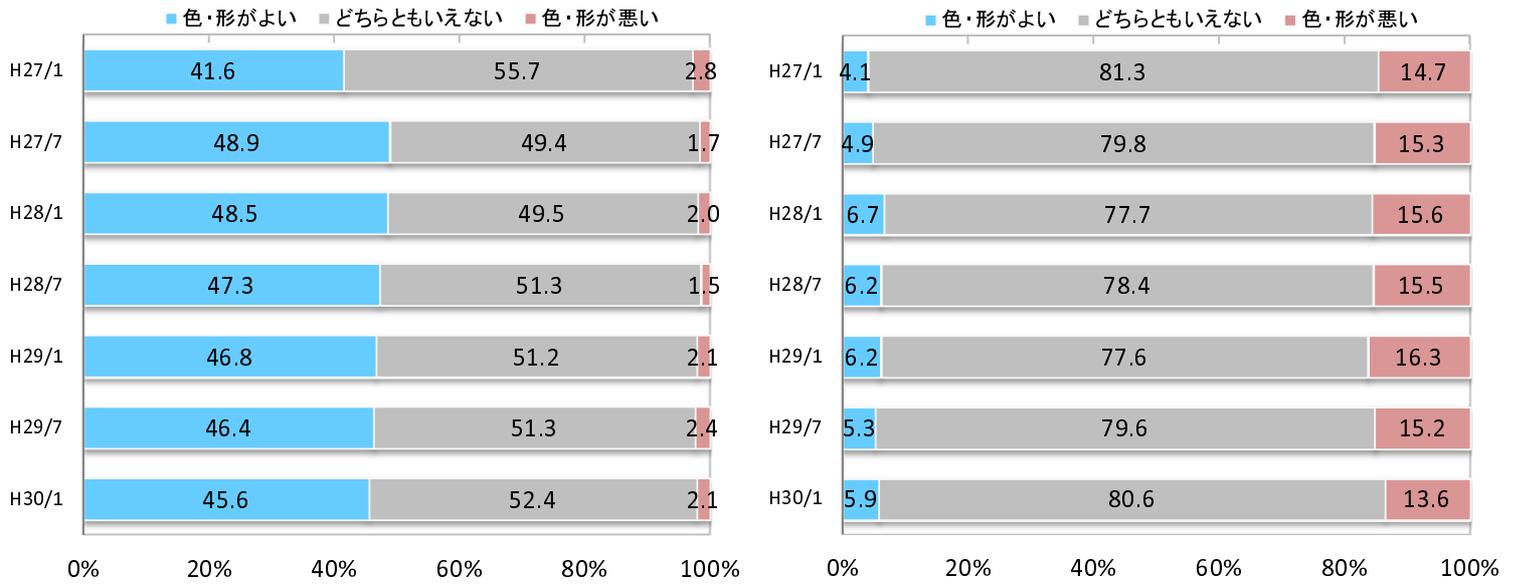


図5 国産食品の輸入食品に対する価格許容度

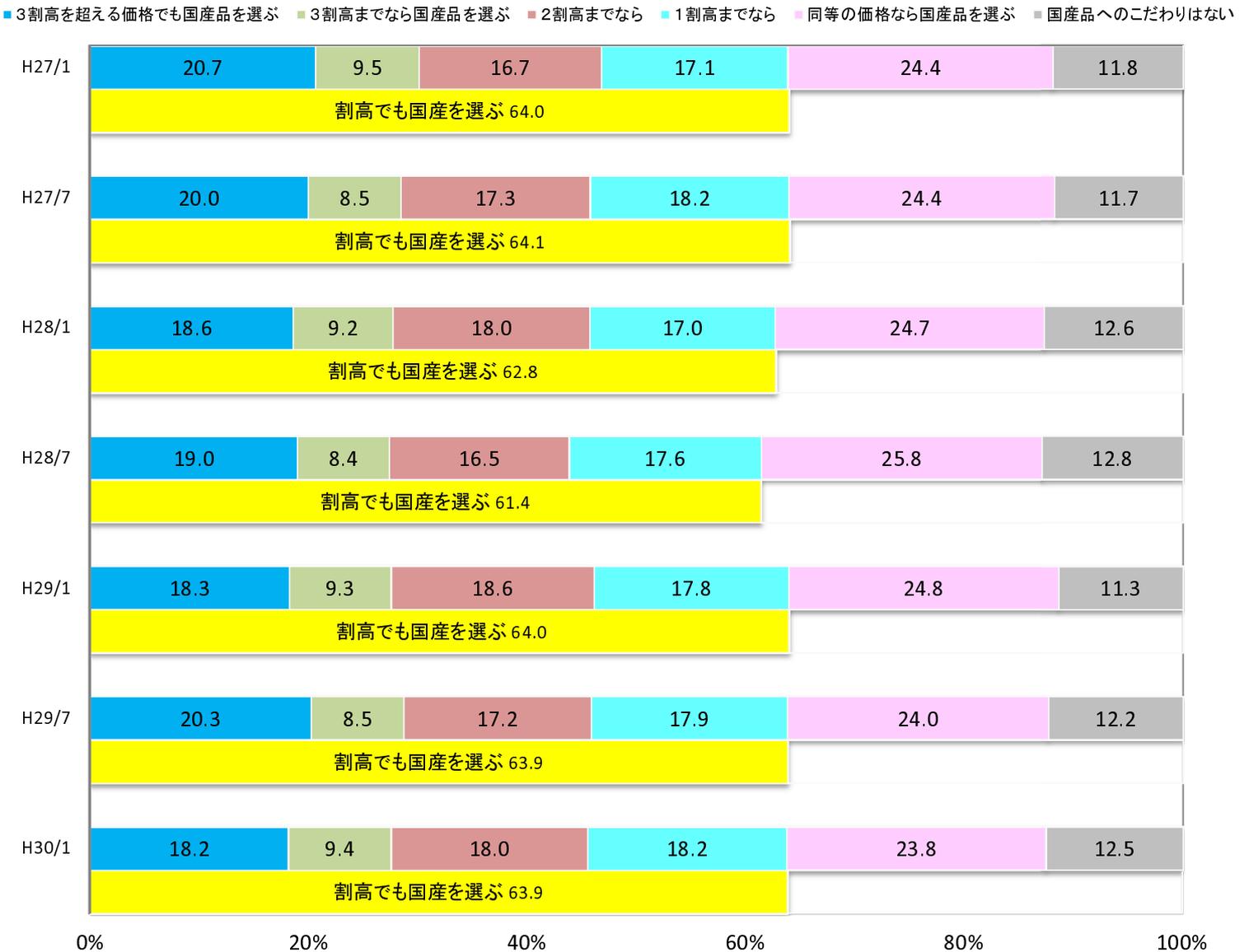


図6 世帯別国産食品の輸入食品に対する価格許容度

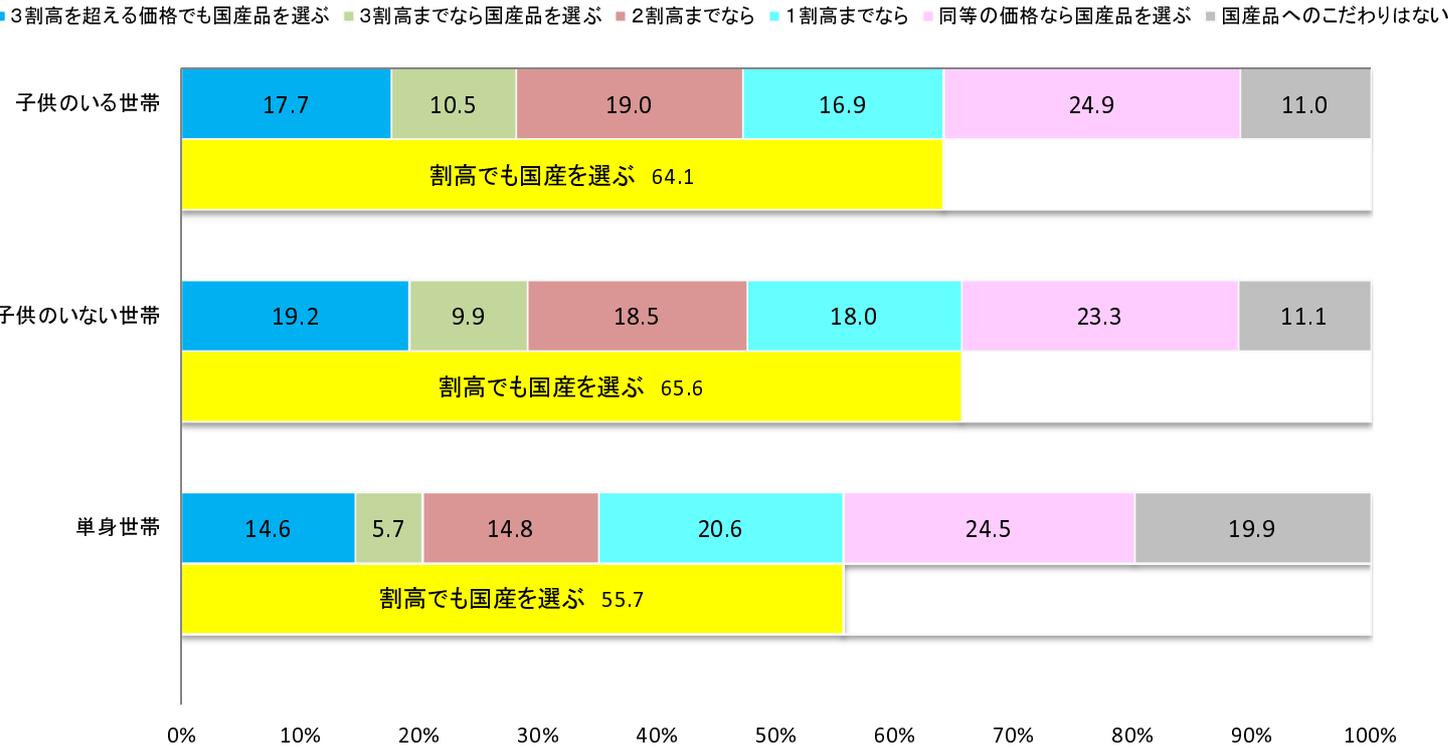


図7 品目別国産食品の輸入食品に対する価格許容

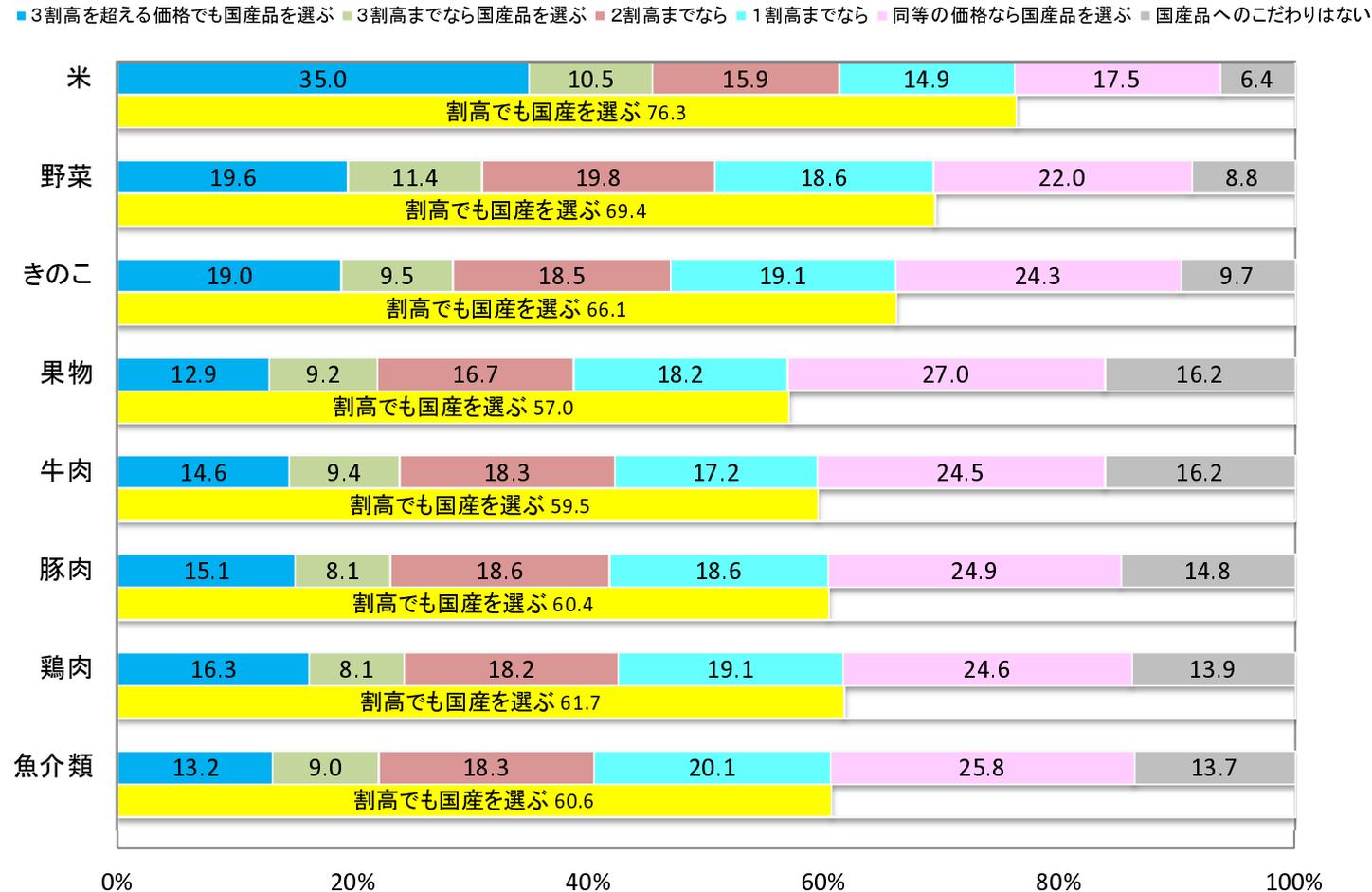
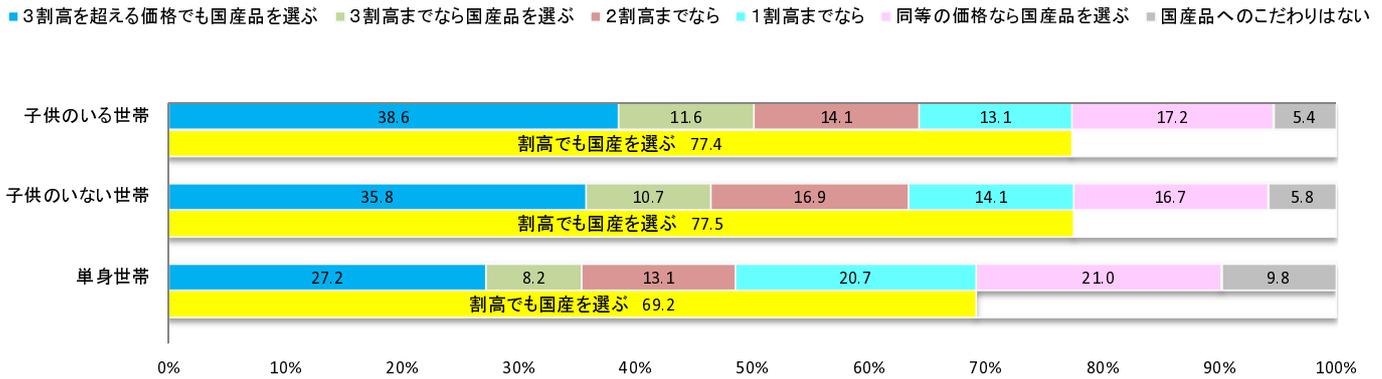
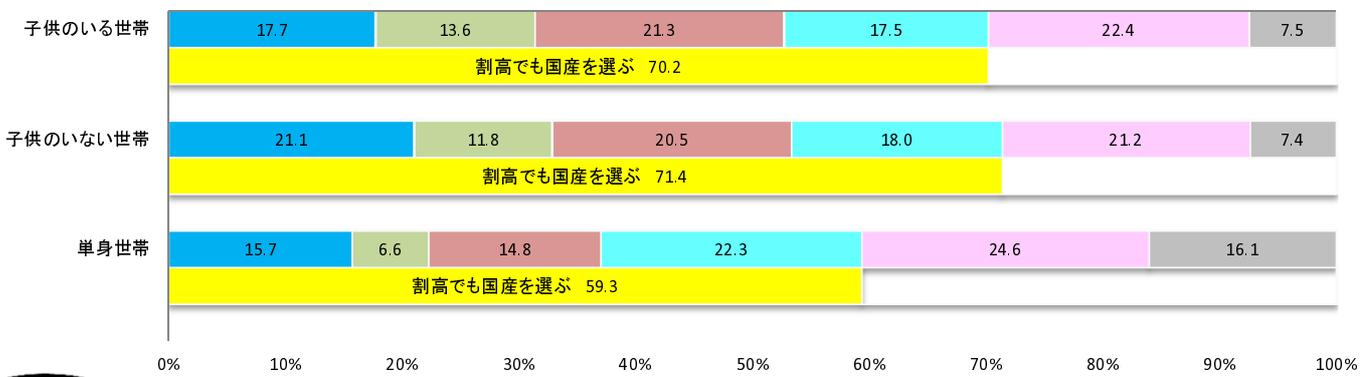


図8 世代別・品目別国産食品の輸入食品に対する価格許容度

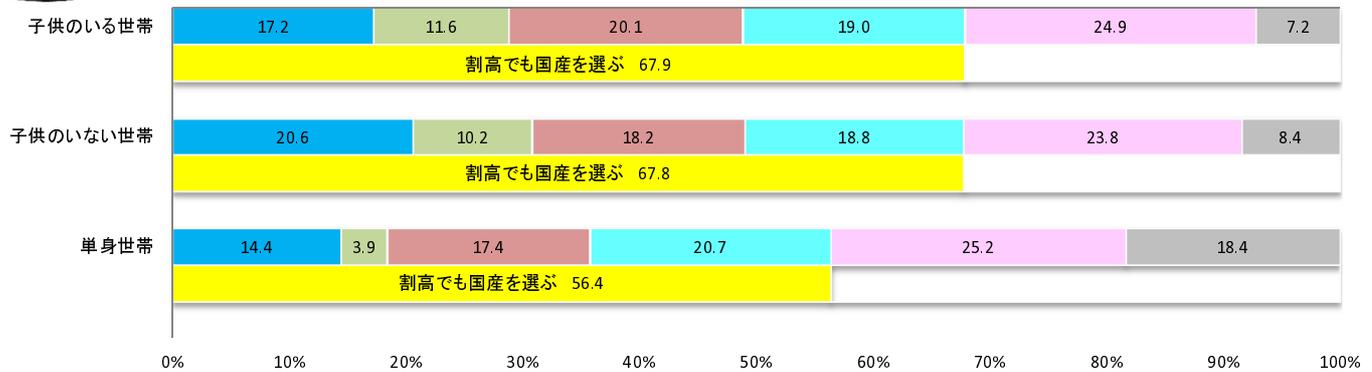
米



野菜



きのこ



果物

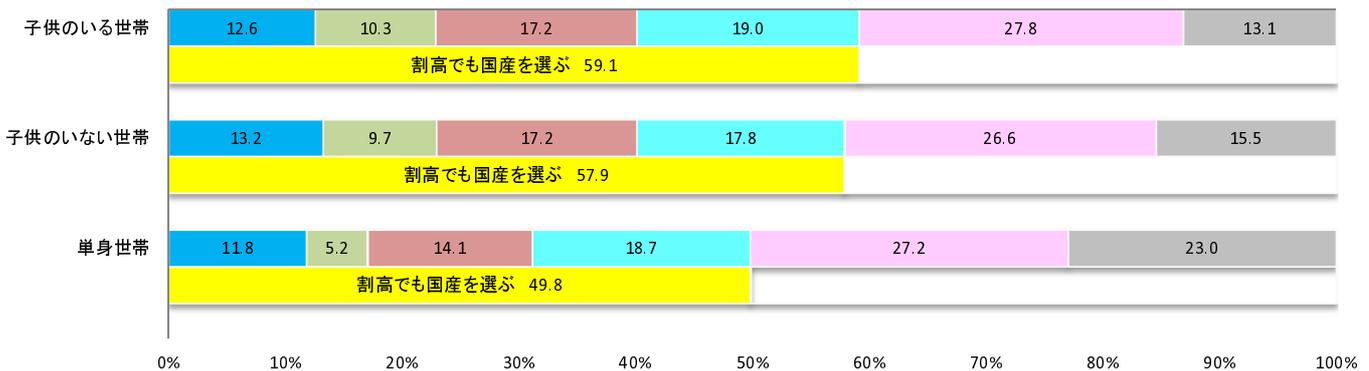
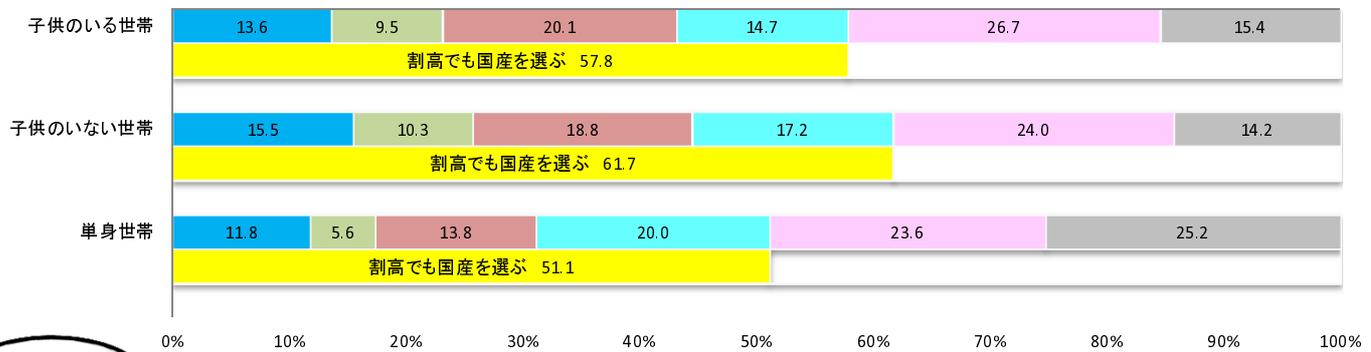


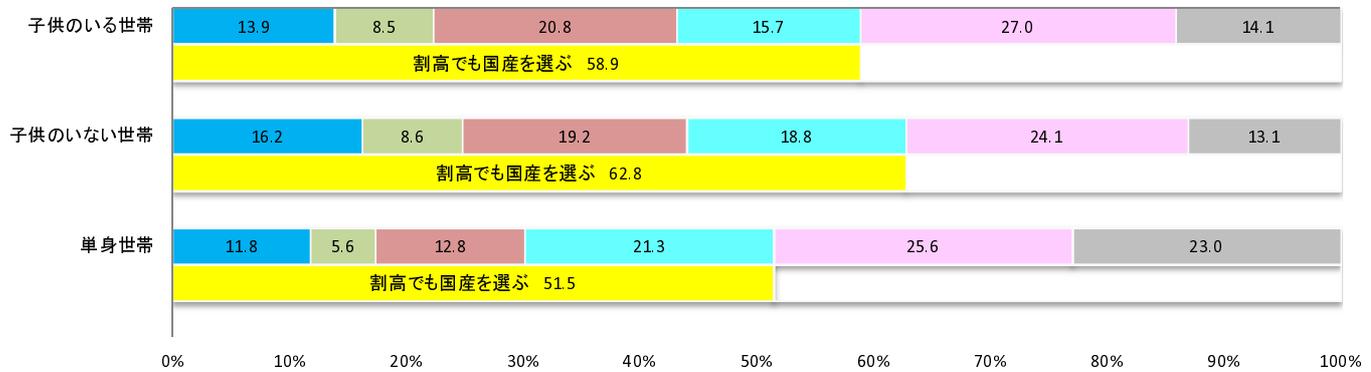
図8 世代別・品目別国産食品の輸入食品に対する価格許容度(続き)

牛肉

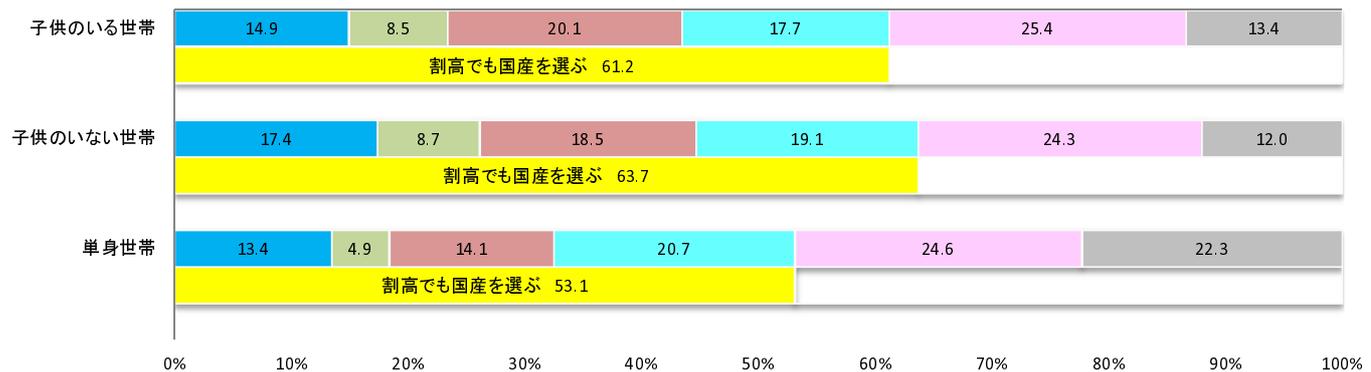
■ 3割高を超える価格でも国産品を選ぶ ■ 3割高までなら国産品を選ぶ ■ 2割高までなら ■ 1割高までなら ■ 同等の価格なら国産品を選ぶ ■ 国産品へのこだわりはない



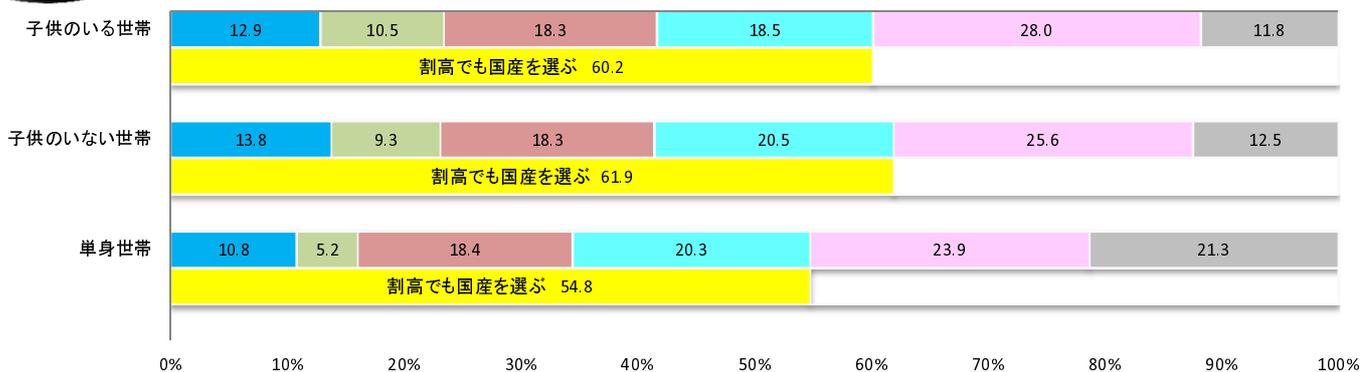
豚肉



鶏肉

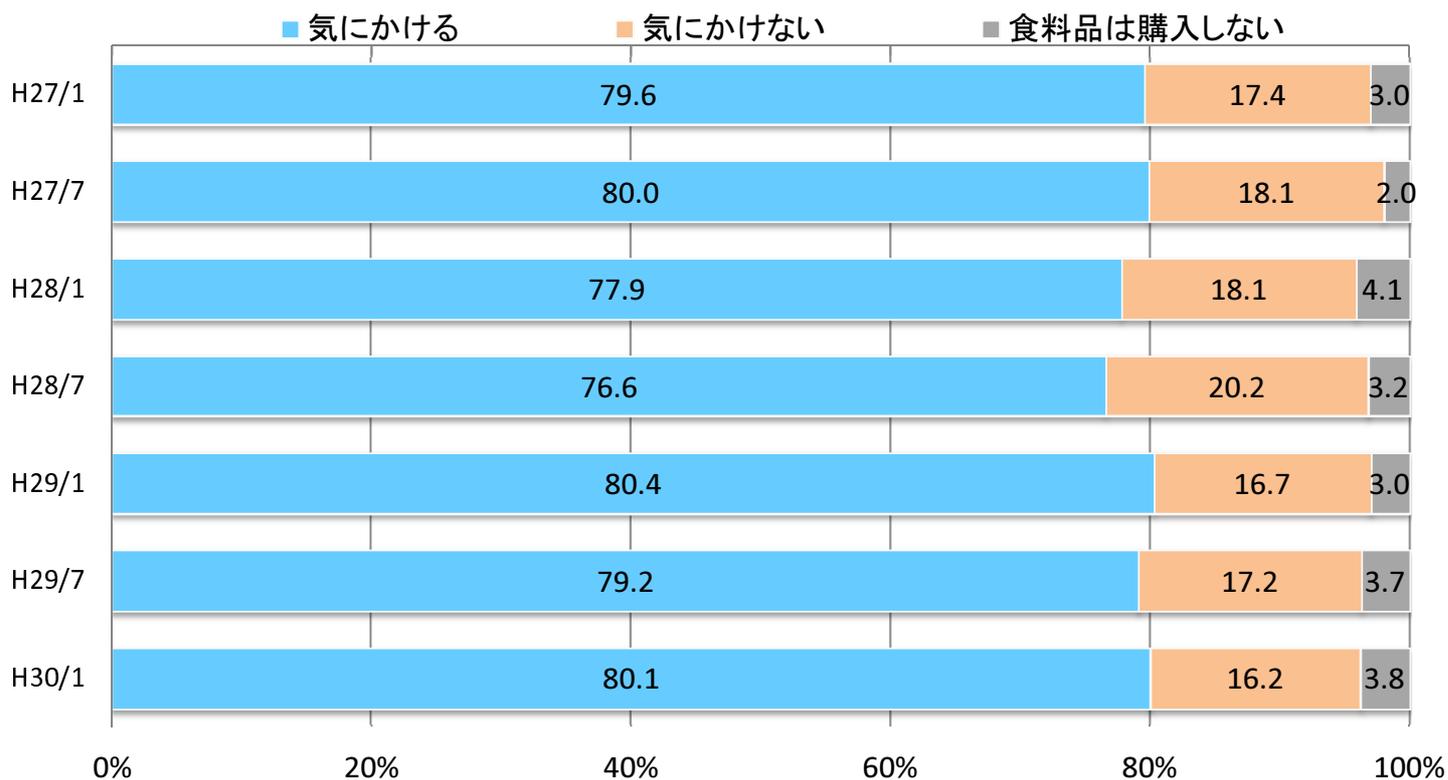


魚介



(参考) 食料品を購入するとき/外食するときに国産品かどうかを気にかけるか

(1) 食料品を購入するとき



(2) 外食するとき

